

# 環境配慮型の フェアトレードの可能性

地球環境戦略研究機関 (IGES)  
プログラムマネジメントオフィス  
特任研究員 渡未 絢

# 発表目的・内容

- 目的
  - フェアトレード:環境的側面へのさらなる着目による「従来の経済・社会的側面を中心とした持続可能な開発に加え、環境保護・保全にも資する可能性」
- 内容
  - フェアトレードとは
  - フェアトレードと環境的側面
  - 環境配慮型の持続可能な社会生計プロジェクト
  - フェアトレードと地域開発—スターバックスのコーヒー農園を例に
  - フェアトレードと森林管理—森林管理協議会(FSC)を例に
  - 環境配慮型活動としてのフェアトレードの可能性

# フェアトレードとは

- 起源：約70年弱前（貧困削減のアプローチの1つとしてヨーロッパで誕生）
  - 定義：「国際取引の中でより公平性を促進させる上で必要な対話や透明性、敬意を基盤に持つ取引関係」（WFTOより一部翻訳）
    - 主要な指針：取引環境の改善、人権の確保に資する持続可能な開発
      - (1)社会的恩恵を受けられない生産者のための市場アクセスの確保、(2)持続可能で公平性のある取引関係の構築、(3)能力育成とエンパワメントの確保、(4)消費者の認識向上、(5)長期的な取引関係を構築しながら持続可能な社会の開発を行う「社会的な契約」を備えた取引アプローチ
- 途上国の人々が自らの力で活動を継続できるよう、環境整備を実施



# フェアトレードとは

- フェアトレード認証マーク
  - WFTO:フェアトレードを実施する団体を認証するマーク



WFTOマーク  
[出典:WFTO website]

- FLO:フェアトレード商品を認証するマーク



FLOマーク  
[出典:Fairtrade International website]

FAIRTRADE  
INTERNATIONAL

- フェアトレード実施にあたってのルール構築

- フェアトレード10カ条(フェアトレード基準)(WFTO)...FT認証団体が遵守すべき行動・考えをまとめたもの(透明性、公平性、人権保護、労働環境、能力育成、環境保護等)
- フェアトレード基準(FLO)...認証団体・取引業者が遵守すべき基準を定めたもの(経済的基準、社会的基準、環境的基準)
- フェアトレード憲章...フェアトレードが国際取引の中で公平性を構築するために必要となる項目をまとめたもの(労働環境、環境的側面、フェアトレードに対するモニタリング・評価)

フェアトレード従事者の社会・経済向上、  
環境状況の保全の持続可能性に資する  
活動を展開

# フェアトレードとは

- フェアトレードの効果等

- フェアトレード従事者・団体(2010年末時点):905の農家・労働組合がフェアトレード認証を取得(63カ国);120万人以上の農家・労働者が関与

→フェアトレード従事者・団体(農家・労働者)の増加率:18%  
(2008年~2010年)

→認証団体は年々増加傾向

- 年間売上:34億ユーロ(2009年/世界)

\*フェアトレード認証を受けた商品・団体の身に限る



# フェアトレードと環境的側面

- フェアトレードにおける環境的側面の位置づけ
  - 社会・経済的側面と同じように重要な側面として位置づけられている
  - 社会・経済的側面 > 環境的側面 (貧困削減/社会・経済成長)  
→ 環境的側面へのさらなる関心の高まり
    - (1) フェアトレード基準: これまで記載されていた環境的側面の記述と2010年10月以降の記述に変化
    - (2) フェアトレード憲章: これまで遵守していた既存の国際法等にフェアトレード独自の要素を組み込み、フェアトレードの中で統一性を持たせる
- 背景: 気候変動がFT生産者へ及ぼす被害
  - 気候変動の被害を受ける地域... 途上国に集中 (貧困の増加)
  - FT従事者・団体... 農産業従事者・団体が多い (不安定な収穫量、天然資源の枯渇による生計手段の損失、貧困の増加等)

## ＜フェアトレードにおける環境的側面＞

- 持続可能な社会・経済成長の促進+環境問題解決への貢献の可能性  
→ フェアトレードにおける環境的側面の迅速な対応の必要性

# 環境配慮型の持続可能な社会生計プロジェクト

## —APFEDプロジェクトを例に—

- APFED (アジア太平洋環境開発フォーラム) プロジェクト
  - アジア・太平洋地域における持続可能な開発に資する先駆的・革新的な活動を選定するプロジェクト (UNEP、環境省と共同実施)
  - プロジェクト実施によって得られた知恵と経験を、優良事例・成功事例として他地域への情報発信や他地域での応用可能性の普及を目指す
  - プロジェクト
    - 野生配慮型生産手法による農業組合コミュニティと生物多様性保全とのつながり (カンボジア)
    - インドの森林コミュニティの生計向上に向けたランタナ (外来種) の伝統的活用の促進 (インド)



# 野生配慮型生産手法による農業組合コミュニティと生物多様性保全とのつながり(カンボジア)

- 対象地: 省庁管轄の保護林・保護区(絶滅危惧種の生息地)
  - 生息地の危機: 人口増加による土地利用の拡大、森林伐採、動植物の利用等
- 活動内容:
  - (1) 保護区・保護林の管理活動および環境配慮型農産物生産事業(ジャスミン米の生産)、(2) ジャスミン米へのWildlife Friendlyマーク認証、(3) 認証マーク付き農産物の販売
- 関連ステークホルダー: 対象地の農家、地元女性グループ、農家の活動検証団体、ジャスミン米のバイヤー紹介団体
- 成果:
  - (1) 地元の現金収入の向上、(2) 保護林・保護区状況の改善(トキの繁殖増加)、(3) ジャスミン米販売市場の拡大、(4) 他地域への応用



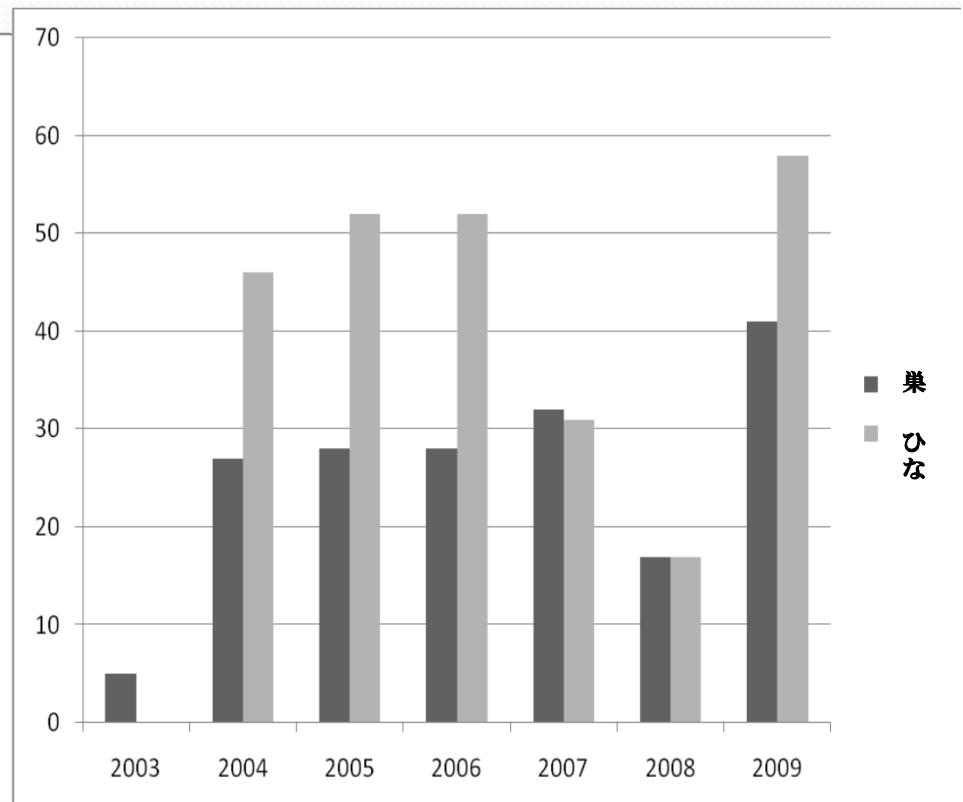
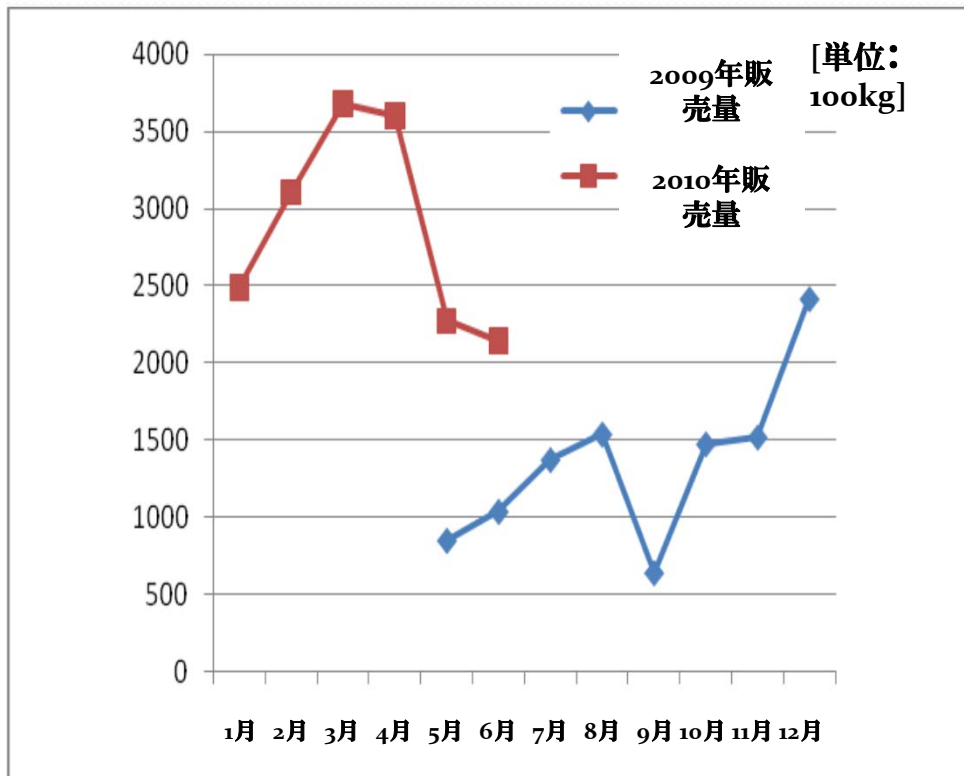
[図1: お米に貼付される認証マーク]  
[引用: Wildlife Friendly Enterprise Network Website]



# 野生配慮型生産手法による農業組合コミュニティと生物多様性保全とのつながり(カンボジア)

米販売量(2009年~2010年)

北部に位置する平野におけるトキの繁殖成功数



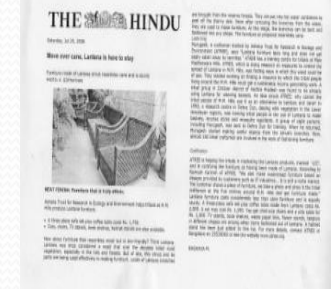
[出典: WCS Cambodia and Hyakumura 2011:21(著者による和訳)]

[出典: WCS Cambodia and Hyakumura 2011: 24]

# インドの森林コミュニティの生計向上に向けたランタナ(外来種)の伝統的活用の促進(インド)

- 対象地:森林保全区域(周辺は部族やコミュニティの居住地)
  - 森林保全区域の危機:生計のために無計画で森林を伐採したことによる天然資源の減少。ランタナ(外来種)の増殖
- 活動内容:
  - (1)ランタナを用いた生計向上プロジェクト(家具や家具製造等)、(2)ランタナの繁殖抑制および天然資源保全
- 関連ステークホルダー:4つの村(経済的・社会的状況と森林資源依存度を考慮して選定)に暮らす男女

- 成果:(1)地元の現金収入の向上・家計費の補完的役割、(2)ランタナ製品の種類の増加・市場での販売、(3)森林保全区域の状況改善、(4)他地域への応用



[左:新たにデザインされたランタナのおもちゃ]  
[右:メディア・論文による本プロジェクトの情報発信・普及]  
[出典:Lopez-Casero, and Kad, Shashi 2009.]



# 環境配慮型の持続可能な社会生計プロジェクト —APFEDプロジェクトを例に—

- まとめ—APFEDプロジェクト2事例

- フェアトレードではないが、環境配慮型であり、かつ地域住民の社会・経済成長を促す持続可能な開発である
- 活動の特徴：社会・経済的にも環境的にも持続可能性を追求
  - (1)活動へのさまざまなステークホルダーの関与を促進
  - (2)地元資源の有効活用
- 活動による効果：環境的要素と倫理的要素を備えている
  - (1)活動規模の拡大(参加者・対象地域)
  - (2)地元の人々の直接的関与による経済・社会的向上
  - (3)さまざまなステークホルダー関与による活動の継続性の保証
  - (4)環境保全

- 地元の人やさまざまなステークホルダーの関与+地域資源の持続可能な活用と地域産業の活用→倫理性と環境配慮の双方を備えた持続可能な開発基盤となる

# フェアトレードと地域開発

## —スターバックスのコーヒー農園を例に—

- コーヒー豆の倫理的調達および持続可能な調達...CSRの一環として(1990年代前後より開始)
  - 2001年:C.A.F.E. (Coffee And Farmer Equality) プラクティスの作成(2004年正式に導入)...スターバックスのサプライチェーンに広く採用
    - 労働環境や児童労働の規制、生物多様性保全に関する規制(土壌侵食、汚染防止等)を遵守する包括的な測定基準
  - 2004年:Farmer Support Centerの設立(コスタリカ)
    - 土壌管理と農作物生産の専門家らによる技術育成センター
  - コンサベーションコーヒーの購入
    - シェイドグロウンコーヒー(熱帯林の木陰の下で栽培されるコーヒー)栽培による生物多様性保全に寄与する手法



# フェアトレードと森林管理

## — 森林管理協議会 (FSC) を例に —

- FSC (森林管理認証マーク) と FT (FLO 認証) の2重認証制度の確立
  - 2009年 (2013年に終了予定) に開始されたプロジェクト。
    - 目的: 公平な価格交渉の実践、さらなる販路・市場の拡大、市場での商品の差別化、FTプレミアム価格の保障による対象地の森林業者の社会・経済向上および地域状況の改善
  - 2010年: FSCとFTの基準の整合性にむけ、木材のフェアトレード基準を策定 (ホンジュラス、チリ、ボリビアのFSC認証を持つ森林管理従事者が実施)



[出典: FSCジャパンウェブサイト  
<http://www.forsta.or.jp/fsc/>]

2重認証制度: (1) 制度による恩恵を受けやすい環境構築、(2) より多くの生産者の経済・社会成長の促進につながる可能性

# フェアトレードとFSCおよびスターバックスと環境配慮型活動

- まとめ—FSCおよびスターバックス
  - 活動の特徴:継続的な社会的・経済的安定性を追求
    - (1)活動を持続可能性に導く「基準」の設定
    - (2)認証マークによる商品への付加価値の付与、プレミアム価格等の設定
    - (3)地元資源の有効活用
  - 活動による効果:
    - (1)地元の人々の直接的関与による経済・社会的向上(安定的な現金収入)
    - (2)商品販売業者の関与による活動の継続性の保証
    - (3)環境保全
- 環境配慮型のフェアトレード...環境配慮型の持続可能な開発と類似
  - 環境配慮型活動としての継続的な実行可能性あり



# 環境配慮型のフェアトレードの可能性

— 環境的要素と倫理的要素の調和を目指して —

- 環境的要素（自然資源の持続可能な有効活用、環境資源の保全・管理・維持）と倫理的要素（生産者の社会・経済的考慮）を両立させるには？

## < 持続可能な開発 >

- 環境的要素：地域資源の有効活用（地域の伝統的手法も含む）を通じた活動の実践
  - 前提：地域住民の参加/参加促進
- 倫理的要素：社会・経済的向上に資するノウハウの習得（能力育成）の機会の構築
  - 前提：さまざまなステークホルダーの関与の必要性
  - 前提：環境問題等の知識や情報の提供



- 環境的要素・倫理的要素を備えたフェアトレードとして展開

# 環境配慮型のフェアトレードの可能性

— 環境的要素と倫理的要素の調和を目指して —

## ● 提言

### ● (1)生産地：情報を共有できるネットワークの構築

- 条件：多くの人アクセスできるようなネットワーク網の整備
- 効果：能力育成等の実施(自立的な活動促進+自然資源の有効活用)、環境配慮型フェアトレードの他地域への応用可能性、安定した社会・経済・環境状況の持続的な確保

### ● (2)販売市場・消費者等：関連情報・知識を取得できるような情報アクセスの整備

- 条件：ステークホルダーが適宜情報を取得できるような環境整備
- 実践方法：例)認証マークの普及にむけたPR・情報提供、CSR活動を通じたPR活動、環境教育の実践、イベント等の展開
- 効果：倫理的行動としての社会的評価(販売業者)、環境配慮型のフェアトレードに対する関心度合いの向上、日常生活を環境配慮型行動に移行する1つの変革期

ネットワーク構築と情報アクセスの整備による環境配慮型のフェアトレードの継続的実践の可能性





ご清聴ありがとうございました

email: [watarai@iges.or.jp](mailto:watarai@iges.or.jp)